

第2章 子どもが主人公！日本各地のあまんじゃく昔話①

この章では、広島市佐伯区に伝わる「あまんじゃく伝説」と同じく、親の言うことの反対ばかりをする子どもを主人公とした、日本各地に伝わる昔話を紹介します。

◆あまがえるふ こう雨蛙不孝

【あらすじ】

“昔、昔、親不孝者がおりました。この親不孝者の息子は、いつも親の言いつけとは反対なことばかりをしていました。お母さんが、「水を汲んで来なさい。」と言われたら、海の塩を汲んで来るし、「海に行って塩を汲んで来なさい。」と言ったら、井戸に行き水汲んで来るし、お母さんは大変困っておりました。そこで、お母さんが病気をし、「もう自分はどうしても再起の見込みはない。」と言うので、子どもに遺言をしました。「私が亡くなったら川原のそばに埋めてちょうだい。」と言いました。「きっとこの子は反対のことばかりをするから、こう言えば私を山手の方に埋めてくれるだろう。」と言うことで、お母さんはそういうふうに子どもに言いました。とうとうお母さんが亡くなると、この親不孝者の子どもは、「自分は今まで悪いことをしてお母さんにたいへん親不孝なことをした。そうだ。これはお母さんの言ったとおりに川の方に埋めないといかんね。」と川原の方に埋めてしまいました。そしたら、もうその後は、雨が降るたびごとに、「お母さんはもう水で川原に流されないかね。」と、雨蛙になったその子は、あのようにゲーク、ゲークと鳴いているそうです。”

(WEB アーカイブ ウチナー民話のへや.<https://okimu.jp/museum/minwa/1582442386/>.(参照 2021-7-04)より引用)



【解説・コメント】

- 1 この「雨蛙不孝」は動物昔話に分類される話ですが、佐伯区に伝わる「あまんじゃく伝説」と、次のとおり類似点が多くあります。
 - ①親に逆らってばかりの子どもが主人公
 - ②親は子どもの天邪鬼な性格を読んで、葬ってほしい場所とは反対の場所を伝える。
 - ③子どもは親の最期を目の当たりにして改心したため、結局、親の希望は叶わなかった。

- 2 一方で、「雨蛙不孝」は、前世は人間だった者が、動物に生まれ変わった後に親の墓を心配し続けるという結末であり、ここは「あまんじゃく伝説」と異なります。

- 3 「〇〇不孝」というタイトル通り、親の生前に親の言うことに逆らう親不孝な者は、最後になって心を入れ替えても遅いという教訓を、動物を使ってわかりやすく伝える昔話といえます。

- 4 また、この昔話は日本各地に同様の内容で伝承されていますが、「雨蛙不孝」と似た話が隣国の韓国にもあります(別章で紹介します)。日本海をはさんで、人・物の交流とともに、昔話の伝播もあったのでしょうか。